

トピックコード	101
トピック題名	異世界探究アカデミー～事故物件の世界～
話題提供者	大島 てる 先生
所属組織	株式会社大島てる
参加生徒数	17名

### トピック内容等

本校芸術科教員の安斎が聞き手役として、事故物件の情報提供ウェブサイトを運営する大島てる氏をお招きし開講しました。まずは、どういったいきさつで事故物件を扱うようになったかについてお話しいただき、続いて事故物件エピソードとして「孤独死」などについての話をしていただきました。また、後半はフリートーク形式で、複数名の生徒の質問にもお答えいただき、最後は「最近は『環境のせい』とか、『遺族が悲しむから』という理由で【自殺】ではなく【自死】という言葉を使う流れがあるが、重要なのはそんなことではない。どんな状況であっても【自殺】はいけないこと。【自殺】に対して、「勇気ある行動だ」とか「かっこいい」などという風潮があるが、それは絶対に間違っている。みんなが多くの時間を過ごす学校なんてほんの小さな世界でしかなくて、卒業すればこれから先の未来にはもっともっと大きな世界が広がっている。小さなことに悩まずに前に進んでほしい。これ以上「事故物件」を増やさないためにも。」というメッセージで締めくくり、今年度最大受講者数での実施となった講座も盛況のうちに終えることができました。

### 生徒の感想

- ・自分は初めて事故物件という言葉を聞いて心霊的な怖い話をするのかと思っていたが、実際には事故物件というのは心霊的なものは人の思い込みなどから後からついてくるものであり必ずしも害があるというものでもなく、その事故物件ができる過程を知ることが大切であり事故物件を減らしていく必要があるということを気付かされました。
- ・物事に対する”境界線”の概念の講義が特によかったです。同じ「誰かの死に場所」という事実でも、ネガティブ・ポジティブそれぞれに扱った例を紹介いただきましたが、一つの事象を良悪どちらの視点で見つめるかによっても、時代、土地、重要性、状況など、様々な線引きがあることを再確認できました。どれだけ歴史をシリアルズに考え、その土地に向き合うことが大変なのかが、少しでもわかつてきたような気がします。また、”同じ「事故物件」というくくりにしてしまう”もしくは”あえて区別する”というお話があったように、境界線の引く・引かないの選択肢も決めなければいけない…なにかをまとめて調査することの大変さがよくわかりました。

### 写真

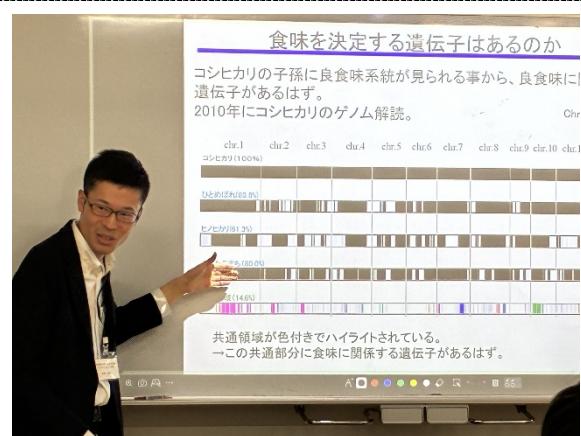


トピックコード	102
トピック題名	「日本で作られた美味しい作物の品種を見てみよう(少し遺伝子に注目しながら)」
話題提供者	篠沢章久 先生
所属組織	東京農業大学 生命科学部 バイオサイエンス学科 助教
参加生徒数	9名
トピック内容等	<p>なぜ人は作物を育種するのか?</p> <p>はじめに事前課題の結果を発表し、それに対しての先生からの説明・解説がありました。その後、これまでの育種で開発されて来た世界に誇れる日本のコメ、野菜、果物の品種についてどのような遺伝子が関与しているのかについて紹介してもらいました。また、分子育種やゲノム編集により作出された作物品種の現状について学習しました。</p> <p>生徒は、事前課題の「日本で作られた作物の品種」について自分で調べた長野パープル、コシヒカリ、練馬ダイコンなどを、生産者・流通者・消費者のどの目線で育種されたかを発表していました。</p> <p>また、講義中や講義終了後においても育種のことやお米の品種のことなどを積極的に質問(保護者の方を含め)をしていたので、良い講義になったと思います。</p>

### 生徒の感想

- ・自分は初めて事故物件という言葉を聞いて心霊的な怖い話をするのかと思っていたが、実際には事故物件というのは心霊的なものは人の思い込みなどから後からついてくるものであり必ずしも害があるというものではなく、その事故物件ができる過程を知ることが大切であり事故物件を減らしていく必要があるということを気付かされました。
- ・物事に対する”境界線”の概念の講義が特によかったです。同じ「誰かの死に場所」という事実でも、ネガティブ・ポジティブそれぞれに扱った例を紹介いただきましたが、一つの事象を良悪どちらの視点で見つめるかによっても、時代、土地、重要性、状況など、様々な線引きがあることを再確認できました。どれだけ歴史をシリアルズに考え、その土地に向き合うことが大変なのかが、少しでもわかつてきたような気がします。また、”同じ「事故物件」というくりにしてしまう”もしくは”あえて区別する”というお話があったように、境界線の引く・引かないの選択肢も決めなければいけない…なにかをまとめて調査することの大変さがよくわかりました。

### 写真



トピックコード	103
トピック題名	「いま、地球環境を守るためにできること」
話題提供者	深野 祐也 先生
所属組織	千葉大学園芸学部 准教授
参加生徒数	5名
トピック内容等	<p>深野先生は進化生態学者でいらっしゃいますが、企業や自治体に対して環境保護について助言するなど、基礎科学と社会との橋渡しをするような活動もされています。今回は、いま地球環境を守るために個人が出来る事として、「生態学を学んで専門家になる」という道があることを伝えてくださいました。</p> <p>COP15などの国際条約を元にして、生物多様性を守るためにの目標が国や自治体レベルで設定されます。</p> <p>一方で、投資家たちはどの企業に投資をするかの判断材料の一つとして、ESGの観点を用いるようになりました。Social(社会)や governance(ガバナンス)と同様に、Environment(環境)問題に取り組んでいるか否かが、企業の評価にも影響を与えています。生徒達に「思いつく企業のHPに『生物多様性』に関するページがあるかどうか」を調べてもらったところ、11社中9社が生物多様性についての専用ページがありました。このように、企業活動が生物多様性に及ぼす影響などを調べ、それをまとめて報告するような「専門家」が必要となっています。</p> <p>また、「儲かるけれど自然破壊」してしまうようなビジネスを、「儲かるし、自然も回復」するようなしくみを作ったり、「自然破壊をすると儲からない」ように働きかけたりするなど、生態学の専門家として出来る事はたくさんあることを伝えてくださいました。この講義をきっかけに、生態学の道を志す生徒が出てくることを願います。</p>
生徒の感想	<p>・ソーラーパネルの欠点は太陽が出ていないと出来ないとくらいだと思っていたので生態系や安全面での危険性があることを初めて知りました。良いと思ってやっても自然界では別の角度で悪影響である可能性があることを知り、今後の探究活動にも活かしていきたいと思いました。</p> <p>・今日の講義でを聞き、生態学とはなにか深くまなべることができました。企業との投資について、色々な例があるなんて思わなかったです。複雑でとても難しかったのですが、今の日本の生態学はどんなものなのか、知ることができてよかったです。</p>
写真	 

トピックコード	104
トピック題名	「フェアトレードに関する講義および貿易ゲームワークショップ」
話題提供者	中島 クラレンズ 先生
所属組織	神田外語大学 IRIS 大学4年生
参加生徒数	9名
トピック内容等	<p>神田外語大学の中島クラレンズさんと田中新之助さんは、大学でフェアトレードを広める活動をしています。初めにフェアトレードについて簡単に説明し、続いて「貿易ゲーム」を行いました。</p> <p>4グループに分かれ、コンパス・定規・はさみ・紙・銀行券などが配布されました。このゲームは、配られたもので決められた形の商品を紙で作って売り、お金持の国を目指します。それぞれの国名はカレー国・ソンポ国・いちご国・すいせい国に決まりました。国力に応じたものが配布されているので同じ量ではありません。相手国に交渉で必要なものを交換したり買ったりします。</p> <p>はじめは戸惑っていた生徒たちも、交渉しながら必要なものを集め、決められた形を作り始めました。途中、価格が改訂されたり、新しい紙が追加されたり、そのたびごとに各国で活発に交渉が行われ、交渉術もだんだん上達していきます。</p> <p>今回はすいせい国が最も多く稼ぎました。それぞれの国のモデルとなった実際の国名が明かされると、すいせい国のモデルは日本でした。情報や技術を持った国はお金を稼ぐことができますが、そうでない国は思うように稼ぐことができません。</p> <p>振り返りでは、「技術があったからもっと使えばよかった」「価格の変動をうまく使えばもっと稼げたと思う」「資源を大切にしようと思った」「バランス重要だと思った」などの意見が出されました。短い時間でしたが、貿易の不均衡や不平等を体験することができました。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題でフェアトレードについて調べ、学ぶことができたが、今日の講習で実際のその国になりきって貿易のワークショップをすることができるで積極的に取り組めた。また専門的な知識を紹介していたとき、短く端的に説明してくれたことによりよく理解することができた。</li> <li>・授業で習う貿易などは堅苦しくて聞いていてあまり面白くなかったが、今回の機会で貿易についてゲーム形式で面白く、理解することができたのでとても楽しかったです。</li> </ul>
写真	 

トピックコード	105
トピック題名	「憧れの人をつくらず生きていく【 進路選択・職業選択・生き方について考えよう 】」
話題提供者	高橋 海歩 先生
所属組織	アーク・エンタープライズ 代表
参加生徒数	26名

### トピック内容等

高橋海歩さんの講演を拝聴しました。まず、事前課題として調べてきた「ロールモデルがあることのメリット・デメリット」をみんなでホワイトボードに書きました。そこからロールモデルは「自分にはないものを持っている」から憧れることが尊かれました。しかし、現実にはなりたい自分となれる自分は一致しない、のが問題なのです。

海歩さんは「ライオンがキリンになれないように、ないものねだりをしてしまうがない。」ことを教えてくれました。先生曰く、ロールモデルを作らずに楽に生きていくには①他人と戦わないこと、②小さく生んで、大きく育てること、③お金のかからない趣味を持つことの三点が大切であるとのことでした。

また、生徒自身が「自分」のことをより知るためのワークショップ「自分自身の棚卸をしよう」を実際に行いました。生徒が取り組んだテーマは次の6つです。

20・30・40代…それぞれの年代でやりたいこと

②時間を忘れて夢中になれる事 ③「これだけはやりたくない」「これは苦手だ」はっきり言えること

④自分にとっての「成功」とはどんな状態か ⑤今「やめたい習慣」と「始めたい習慣」は?

⑥今まで書きたした中で今日から始められることは?

辛さや悩みを書きだすことで言語化し、それをシェアすることで他人と自分の違いを発見できるワークショップでした。講演後の質問では男子生徒が「どうやって起業するか」など積極的に質問しており、「起業」意欲をそそられたようでした。

### 生徒の感想

・自分の探究でちょうど、他人と比較しそうると自分のアイデンティティを見失う、というようなことを考えていて、とても勉強になりました。良い意味で、趣味・特技・やりたいことが多くて、将来こうしたい・これをやりたい、と思うものが多くて、進路に迷っていました。今日のワークショップを通して改めて自分が何をしたいのか、何をやりたくないのか、自分のことが色々わかった感じがしました。今日から始められることはたくさんあったので、少しずつ、始めやすい簡単なことで良いから、始めてみようと思いました。

・自分のことと向き合う機会が得れて良かったです。周りの友達にロールモデルがいる人が多く、TikTok などでもロールモデルを作ろうみたいなのをよく見かけていて自分はいないからいた方がいいんだろうなとは思うけどどうすればいいんだろうと思っていたのでロールモデルはなくてもいいという考えが聞けて、いないことに悩まなくてもいいと思ったら心が軽くなりました。

### 写真



トピックコード	106
トピック題名	「再生医療の過去・現在・未来」
話題提供者	服部 精人 先生
所属組織	北里大学健康科学部 助教
参加生徒数	20名
トピック内容等	<p>再生医療の過去・現在・未来についてと題して、北里大学健康科学部の紹介、再生医療、ES 細胞の問題点、ips 細胞のしくみや現在の ips 細胞技術がもたらす新たな問題点、解決策などについてディスカッションした。</p> <p>議論として倫理的問題、拒絶反応の問題などが議論となった。生徒からは人のクローン作成は可能か？</p> <p>プラナリアと ips について、新規治療薬には長期的なデータが必要などの意見がでた。まとめとしては、再生医療は現在の医学でも治せない病気を治すことも可能とするツールだが同時にヒトとしては超えてはいけないであろう倫理的壁を簡単に超え得るツールである。これからAI分野も含めて研究倫理を考えることが非常に重要なポイントとなる。</p>
生徒の感想	<p>・ips 細胞について最初は名前しか知らなかったが、今回講習を受けて、ips 細胞が有能な細胞であること、これから医療により幅広い可能性を与えることに繋がることを知れて、とても興味深いなと思いました。私はAIに興味があり、AIもまたこれからの時代では重要視されたくさんの可能性に繋がるものだと思います。ただ、そこには色々な問題がありそれらにどう対応をしてどうやってよい活用をしてかが鍵になると思います。ips 細胞とAIはいずれ繋がつて、切り離せない物なのではないのかな、よりたくさんの可能性が見えて面白いなと思いました。</p> <p>・今回の講義は、自分が一番楽しみにしていたものでした。講義前はとても緊張していましたが、ディスカッションが多く、すぐに打ち解けることができました。講義を聞いているうちに、自分の中で探究心がどんどん強まっていき、とても充実した講義だったと思います。iPS 細胞については、おそらく普段の生活の中では関わることのない話題だと思うので、深く内容を知ることができてとてもうれしかったです。また、私がした質問に対して教授がわかりやすく答えてくださったおかげで、より理解が深まり、大変わかりやすい講義になったと感じました。さらに、普段関わることのない先輩方の知的な意見を聞くことができ、自分の中でも新たな視点を取り入れることができたのではないかと思います。実験を行っている立場として、恥ずかしながらこれまで倫理についてあまり考えたことがなかったため、研究においてこうした観点も大切なのだと改めて気づかされ、自分を見直すことができる素晴らしい機会になりました。今回の講義を通して、今後もさまざまな人の意見を聞き、新たな視点を持つことの大切さを実感しました。これからは、いろいろな講義や交流の場に積極的に参加していきたいと思います。</p>
写真	 

トピックコード	107
トピック題名	「デザイン思考で視点を変える考え方」
話題提供者	村井 泰智 先生
所属組織	株式会社むすびば デザイナー・講師
参加生徒数	19名

### トピック内容等

最初に、客のニーズにこたえられていない変なデザインの商品の紹介をした。今回伝えるデザイン思考とは共感②定義③創造(アイデア)。④プロトタイプ⑤テストのサイクルのことでサイクルを繰り返すこと。

最も大切なのが、共感と定義でしっかりしてないとニーズにこたえられない。プレゼントについて例を出す。

共感はクラブ・勉強頑張っている、それに対して気づきをする。何をあげるかではなく、気持ちを届けるのが定義である。アイデアはクラブのお守を創るとか思いついたアイデアをたくさん出す。プロトタイプとは渡し方をどうするかなどを考えること。テストは実際に渡してみる反応を生かして、最初の共感に戻りサイクルをする。その時一番大事なのは視点を切り替えること。

ワークショップ:5人のグループになり、各自の事前課題を発表し事前課題の共有をした。その中で一番共感できるものを2件選ぶ。2件の発表者に全員で視点を変えるインタビューする。(5分間)発言に否定はしない。創造について、各自(個人)でアイデアをたくさん出す。付箋一枚に一つのアイデアを記入する。実現可能・不可能を考えない。(5分間)

10分で今あげたアイデアを一人ずつ発表し5人で共有しあう。極端なことでも現実的でなくてもいいので否定はしない。プロトタイプは15分間に付箋のアイデアをピックアップして膨らませてまとめ、アイデアはみんなで決め、スケッチは個人で描く。最後にどんな困りごとを解決できるのかを書く。ポイントは、正解はない・否定しない・つなげる。各班一名が全員に1分間でプレゼンする。

まとめとして、デザイン思考は個人でも考えが浮かぶが、グループで共有しあうと色々意見がもらえ発展する。正解を探すのではなく、視点を切り替える考え方がデザイン思考である。探究学習でも活用できる。

### 生徒の感想

- ・実際にはできないことだから、そのままやりたいことを言えました。モヤモヤも少しのデザインの違いで心地よく日常を過ごせるようになるということが学べてすごく楽しかったです。最初話を聞いたときにはデザインって思った以上に難しそうだと思い、実際に簡単にできるものではなかったのですが、それ以上に楽しみながら体験できたのでよかったです。先生には本当にGPS持つて欲しいです。
- ・私も美大を目指しているので学部や大学の話も聞けたり、面白い話とともにしていただいてとても楽しかったです。何にでもデザインなんだと言うことも知れ、知らない人とグループで話して決めていくのも新たなアイデアがきて面白いと思いました。

### 写真



トピックコード	108
トピック題名	「うつ病になると○○になる!?」—うつ病の実際、当事者がありのままに語ります—
話題提供者	須戸 ひかり 先生
所属組織	個人事業主 校正者・辞書編集者
参加生徒数	19名

### トピック内容等

10年ほど前に発症したうつ病の経験をもとに、うつ病を「気分の落ち込み」ではなく「脳機能の障害」として正しく理解することの重要性を語っていた。発症から診断、休職・退職を経て、現在も服薬を続けながら社会復帰している姿を通して、「うつ病になんても絶望する必要はないが、軽く見てはいけない」と訴えていた。

うつ病と双極性障害の違いや症状の多様性、周囲の誤った助言への注意なども具体的に示されていた。さらに、「知る」と「理解する」の違いを考えるグループワークを行い、「知ることは誰でもできるが、理解することは限界がある」との考えを提示し、「自分の物差しで他人を批判しない」「何も言わない優しさ」など、人との関わり方についても深く考えさせる内容であった。

### 生徒の感想

・自分は鬱病をある程度分かっているつもりでしたが、聞いたことのないような症状や状態を聞いて、自身の鬱病に対する認識が凝り固まっていたものだと気づかされました。また、どんな言葉をかけるのが良いのか、悪いのかが鬱病だけではない全ての物事に通じることを学びました。

・事前課題として調べたときは、精神疾患や心の病気と出てきたのですが、実際には、脳が壊れてしまうようなことだと初めて知りました。したくてもできない、頑張りたいのに頑張れないのは私たちが想像する何倍も辛いことなのだろうなと思いました。人によって症状や程度は様々で、一概に鬱とはこういうもの、と断定できず、難しく感じました。無自覚な発言で相手を追い詰めてしまう話が心に残りました。これから先、鬱の人と会ったり、自分が鬱になった場合には、理解できないなりに相手の状況を想像して、間違っても自分を基準に発言しないように気をつけようと思いました。このような事実や考え方、実際に経験の方に話していただくことでしか出会えなかつたので、私の視野が広がってとても有意義だったと感じました。

### 写真



トピックコード	109
トピック題名	「フェアトレードによるつながる世界：消費と生産のグローバルな視点」
話題提供者	鈴木 和信 先生
所属組織	日本大学 国際関係学部 教授
参加生徒数	5名

### トピック内容等

「フェアトレードによるつながる世界：消費と生産のグローバルな視点」というテーマのもと、双方向型の授業を行いました。グローバル化が進む現代社会では、貧富の格差がますます拡大しています。授業では、まず「貧困」という問題を深く掘り下げ、その実態と連鎖する構造的な問題について考察しました。

さらに、「援助」とは何か、その内容や方法、そして効果についても多角的に検討しました。また、違法な児童労働や教育の機会の欠如といった課題についても取り上げました。これらの問題の背景には、「無知」から生じる無関心があることを学びました。

持続可能な未来を築くためには、途上国の人々の生活や社会の実態を正しく理解し、自ら行動を起こすことが必要です。その一つの手段として「フェアトレード」があります。授業では、フェアトレードの仕組みや目的、そしてそれが途上国の人々や社会にどのような効果をもたらすのかを学びました。こうした学びを通じて、世界の「つながり」を意識することで、自分自身の生き方や価値観を見つめ直す機会にもなりました。そして、最終的には「幸せとは何か」を考えることにもつながりました。生徒たちは非常に意欲的に授業に参加し、活発に発言していました。鈴木先生の問いかけを的確に理解し、自分の意見をしっかりと述べる姿勢が見られました。

### 生徒の感想

・元々、貧富の格差問題やフェアトレードに似たテーマに興味を持っており、このワークショップを受講させていただいたのですが、自分のフェアトレードのイメージと実際のイメージとでは、ギャップがあつて印象的でした。また、本来なら（コーヒー・カカオ）の原産国の人々が自分たちの商品の多くを消費するはずが、実際はヨーロッパをはじめとする先進国の国民が生産国から輸入してきて商品の9割強を消費しているという話を聞いて衝撃を受けました。本日のワークショップを通して、発展途上国における貧困問題に関する教養を身に付けられたように感じます。そして、ただのんびりと何も特に考えず日々を送るのではなく、社会問題に目を向け、自分は現状を良くするために何ができるのかを考えて、日頃から広い視野を持つ大切さに気付く良い機会となりました。

・フェアトレード商品を以前買ったことがあり、チョコレートが好きなので今回このトピックを選びました。貧困についてお話を聞くまでは、経済的な面だけだと思っていたが、話を聞いて、政治的な面や身体的な面でも貧困と言えるということを初めて知りました。また、魚釣りの名人の例でのものあげるのではなく、やり方を教えるという考え方方は今の自分の考えになかった視点だったので、とても納得したし、今後に活かせる考え方だと思いました。スーパーなどでフェアトレード商品を見かけるので今度買ってみようと思います。

### 写真



トピックコード	110
トピック題名	「うなぎ, 鰻, ウナギ, freshwater eel」
話題提供者	吉永 龍起 先生
所属組織	北里大学海洋生命科学部 教授
参加生徒数	12名

### トピック内容等

鰻の食文化と資源保全をテーマにした講義では、「鰻はいつ食べるものか」という導入から始まり、世界に 19 種類いる鰻の生態や、減少が深刻な現状について解説された。すべての鰻は海で生まれ、稚魚のシラスウナギを捕獲して養殖するが、国内の採捕量は 60 年前の 10 分の 1 以下に減少。

日本で流通する鰻の多くは養殖・輸入に頼っており、2000 年代にはヨーロッパウナギ、近年はインドネシア産のバイカラウナギが増えている。中には輸出禁止のはずのヨーロッパウナギが加工地を変えて販売されるなど、表示の不透明さも指摘された。また、鰻は地方名が 114 もあるほど人々に親しまれ、文学や文化にも深く関わる存在であることも紹介された。絶滅危惧種が多い中、グアム近海での神秘的な産卵など、未解明な生態も多く残されている。講義では、こうした現状を踏まえ、サステナブルな鰻食のあり方を考え、これからも大切に食文化を継承していくことの重要性が強調された。

### 生徒の感想

・うなぎウナギ鰻について解決策や背景など色々な方面から学ぶことができてよかったです。私は鰻を守る提案としてほぼカニ(かにかま)のオマージュしたほぼ鰻を作り、その利益の一部を鰻の保護活動に寄付するという解決策を考えました。そうすれば本物のウナギを食べる機会が減ったり、私と同じように鰻アレルギーの人も土用の丑の日の際にみんなで食べることができたりといった利点があると考えました。私はウナギの価格は少しだら高騰してもいいと思っているのでワシントン条約ではない何か違った方法で保護してほしいと思います。話が少しずれてしまうのですが論文でも使う根拠などが違えば全然違う主張になっているのを見て驚きました。

・日本人に身近な魚である「うなぎ」の奥深さを知りました。どこから生まれてくるのか、どうやって成長するのか、思った以上にその生態は未知で、神秘的だと感じました。一方で、そんなウナギが減少している(かもしれない)、規制強化により日本で今までのようウナギを楽しめなくなるかもしれないという事実、絶滅危惧種に、ニホンウナギとそれ以外のウナギの種類も含め登録されているということ、私たちがウナギを安く食べている裏で、熱帯の島に暮らす部族の未来が絶たれようとしているかもしれないことなど、厳しい現状も知ることができました。また、ウナギ規制をめぐる政治の汚い部分の話、ウナギの卵の発見に偶然の要素も含まれていたことなど、長年研究に携わってきた方だからこそできる裏話話もしていただき、大変興味深かったです。ウナギをどう将来の世代へ残していくかをよく考えるきっかけを頂いたと思います。また、遠い海の巨大な船上での調査研究などにも興味を持つことができました。

### 写真



トピックコード	111
トピック題名	「国際経営論について」
話題提供者	咲川 孝 先生
所属組織	中央大学 国際経営学部 教授
参加生徒数	11名

### トピック内容等

多国籍企業とはどのような企業かに始まり、多国籍企業の成長とともに加速するグローバル化の現状について理解を深めた。ハーベンダッツやキットカットの抹茶味のように、多国籍企業による現地適合や、マクドナルドのように同じ商品を世界中で販売するビジネスモデルなど、一口に多国籍企業と言っても、そのビジネス戦略は様々である点が紹介された。

異文化経営をテーマに、講義者が昨年まで滞在していたウェールズでのエピソードが紹介された。もしも自分が海外駐在員になったとしたら、現地文化を知ること、特に言語を知ることが大切であると説かれた。また、ホフステドの文化次元理論も紹介された。また、生徒が事前に調べてきた多国籍企業について、話題提供者からより詳細なエピソードなども提供され、テーマに対する生徒の興味関心を高めていた。

### 生徒の感想

- 今まで多国籍企業と日本の関わりや、日本にどのような多国籍企業があるのかを知ることができた上、今まで視野に入れてこなかった経営という分野を知ることができました。今後どのように世界と関わっていくのかを考えることが出来ました。
- もともと海外で働いたり、国際的な職業に興味があったので、それを深く考えることができた有意義な時間になりました。自分も留学に行ったり、海外の大学への進学や、就職を視野に入れてるため、郷に入つては郷に従えを大切に生きていきたいです。

### 写真



トピックコード	112
トピック題名	「グリムの世界とアダプテーション」
話題提供者	田中 洋 先生
所属組織	杏林大学 准教授
参加生徒数	22名

### トピック内容等

今回の講義では、「グリム童話」と「ディズニー作品」を比較し、物語が時代とともにどのように変化してきたかを学びました。はじめにグリム兄弟の生涯や功績がされ、ドイツの教育制度や先生の留学経験にも触れられると、生徒たちは興味深く聞き入っていました。

講義では『白雪姫』を例に、グリム版とディズニー版の違いが示されました。グリム初版では実母が白雪姫の命を狙う残酷な展開でしたが、版を重ねて继母が登場するように変化し、さらにディズニー版では実母の描写自体がなくなり、魔女である「王妃」が登場するようになります。また、ディズニー版がキャラクターに名前や個性を与える一方で、物語の展開自体は簡潔にまとめ、残酷な結末を避けて勧善懲悪を明るく描く構成に改めたことを分かりやすく説明していただきました。ディズニー作品が童話などをもとに作成されたことを知っていた生徒たちも、初版の残酷さに驚き、変化の理由を考えしていました。

こうした変更(アダプテーション)は、商業的な意図だけでなく、時代の価値観や社会背景を反映するものだと説明されると、生徒たちからは「アナと雪の女王」や「モアナ」のように、結婚をゴールとしない物語が挙げられました。そこに自立した女性という価値観が反映されているのではないかという意見も出ました。

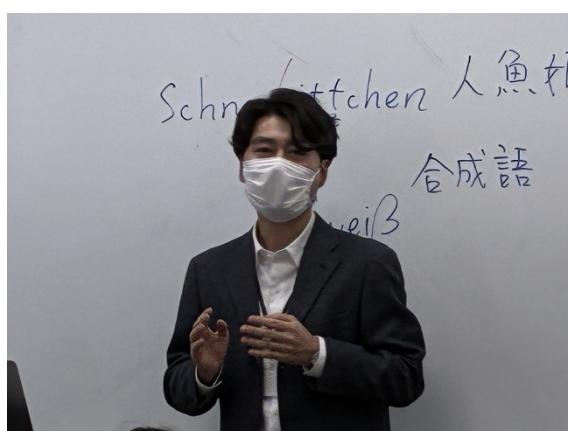
他にも先生から漫画原作の映画や昔の作品のリメイクなどの例も紹介され、物語の変化から時代の価値観を読み取る面白さを実感する講義となりました。

### 生徒の感想

・グリム童話と現代版ディズニーの比較は非常に分かりやすく、物語の変更には、時代背景や冗長さの回避、現代の価値観への適応、そして残酷な描写を和らげるなど、さまざまな目的があることを理解できました。特に、初版のグリム童話には想像以上に残酷な描写が多く、そのグロテスクさに驚かされました。また、日本昔ばなしとドイツのグリム童話の間には、三度目の正直など国を超えて共通する要素が見られることも、新たな発見でした。

・とても興味深いテーマでした。ディズニー作品を原作のグリム童話と比較すると、様々な部分が差し替えられたり追加設定がされていたりと、時代の変化に合わせた作品作りがされていたことがわかりました。確かに、ディズニー作品に登場するプリセンスだけを見ても、王子様と結ばれること・結婚することだけをゴールとしているプリンセスもいることに気づかされました。そういうことがアダプテーションであることがわかりました。これらを踏まえたうえで、アダプテーションされた作品だけではなく、原作のグリム童話も読んでみたりしました。「なぜ変えたのか」・「著者の意図とは」・「原作との比較」・「原作をそのまま現代で反映させてしまったら」などを考えながら改めて鑑賞してみることは、新たな視点となると思いました。

### 写真



トピックコード	113
トピック題名	「あなたは(あるいは多くの人は)なぜ大学に進学するのか」
話題提供者	熊倉 正修 先生
所属組織	明治学院大学・国際学部・国際学科 教授
参加生徒数	7名

### トピック内容等

明治学院大学の熊倉教授をお招きし、「あなたは(あるいは多くの人は)なぜ大学に進学するのか」というテーマで講演を行いました。教授は自己紹介と事前課題の説明の後、男女別の進学率や就職率の推移、給与の分布、最終学歴別の失業率など、具体的なデータを用いて大学進学の意義を丁寧に解説してくださいました。

また、「大人になったらなりたいもの」の男女差やOECD加盟国の失業率についても触れ、進学や就職を社会全体の流れの中で考える視点を示してくださいました。

生徒7名は円形に座り、教授の問いかけに順番に答える形で参加しました。「進学することで視野が広がると思う」「大学でより専門的な学びをしたい」といった自分の考えを率直に述べる生徒もあり、落ち着いた雰囲気の中で一人ひとりが考えを整理する時間となりました。全体を通して、生徒たちは教授の話に熱心に耳を傾け、大学進学の意味や将来の働き方について改めて考える貴重な機会となりました。

### 生徒の感想

・大学に入学することになぜだろうと疑問を持ったことがなかったので、今回の講義を聞いてとても勉強になりました。行きたい学部をぼんやりと考えているだけで、まだ詳しくその学部について知ろうとしていなかったので、自分が将来就きたい職業も見据えて、もっと詳細に目指す学部を決めようと思いました。欧米では日本と教育のスタイルがこんなに違うことを知らなくて、日本だと、自分に合わない職業だと思ったら転職することが欧米ほど難しくないと思うので、日本のスタイルが私には合っていると思いました。進路を真剣に考えるきっかけになりました。

・人生に悔いのない選択をするのはとても大変なことだが、本当に正しい選択をするとすごく楽になると思いました。また、選択をするにあたり、友達や周りの人の力はとても頼りになると思いました。自分は今将来の選択で迷っていることが沢山あるので、この話が人生の道しるべとなると強く思えました。

### 写真



トピックコード	112
トピック題名	「グリムの世界とアダプテーション」
話題提供者	田中 洋 先生
所属組織	杏林大学 准教授
参加生徒数	22名

### トピック内容等

今回の講義では、「グリム童話」と「ディズニー作品」を比較し、物語が時代とともにどのように変化してきたかを学びました。はじめにグリム兄弟の生涯や功績がされ、ドイツの教育制度や先生の留学経験にも触れられると、生徒たちは興味深く聞き入っていました。

講義では『白雪姫』を例に、グリム版とディズニー版の違いが示されました。グリム初版では実母が白雪姫の命を狙う残酷な展開でしたが、版を重ねて継母が登場するように変化し、さらにディズニー版では実母の描写自体がなくなり、魔女である「王妃」が登場するようになります。また、ディズニー版がキャラクターに名前や個性を与える一方で、物語の展開自体は簡潔にまとめ、残酷な結末を避けて勧善懲悪を明るく描く構成に改めたことを分かりやすく説明していただきました。ディズニー作品が童話などをもとに作成されたことを知っていた生徒たちも、初版の残酷さに驚き、変化の理由を考えていました。

こうした変更(アダプテーション)は、商業的な意図だけでなく、時代の価値観や社会背景を反映するものだと説明されると、生徒たちからは「アナと雪の女王」や「モアナ」のように、結婚をゴールとしない物語が挙げられました。そこに自立した女性という価値観が反映されているのではないかという意見も出ました。

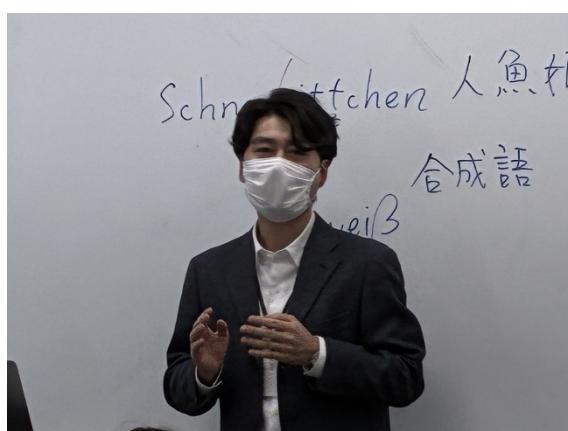
他にも先生から漫画原作の映画や昔の作品のリメイクなどの例も紹介され、物語の変化から時代の価値観を読み取る面白さを実感する講義となりました。

### 生徒の感想

・グリム童話と現代版ディズニーの比較は非常に分かりやすく、物語の変更には、時代背景や冗長さの回避、現代の価値観への適応、そして残酷な描写を和らげるなど、さまざまな目的があることを理解できました。特に、初版のグリム童話には想像以上に残酷な描写が多く、そのグロテスクさに驚かされました。また、日本昔ばなしとドイツのグリム童話の間には、三度目の正直など国を超えて共通する要素が見られることも、新たな発見でした。

・とても興味深いテーマでした。ディズニー作品を原作のグリム童話と比較すると、様々な部分が差し替えられたり追加設定がされていたりと、時代の変化に合わせた作品作りがされていたことがわかりました。確かに、ディズニー作品に登場するプリセンスだけを見ても、王子様と結ばれること・結婚することだけをゴールとしているプリンセスもいることに気づかされました。そういうことがアダプテーションであることがわかりました。これらを踏まえたうえで、アダプテーションされた作品だけではなく、原作のグリム童話も読んでみたりしました。「なぜ変えたのか」・「著者の意図とは」・「原作との比較」・「原作をそのまま現代で反映させてしまったら」などを考えながら改めて鑑賞してみることは、新たな視点となると思いました。

### 写真



トピックコード	113
トピック題名	「あなたは(あるいは多くの人は)なぜ大学に進学するのか」
話題提供者	熊倉 正修 先生
所属組織	明治学院大学・国際学部・国際学科 教授
参加生徒数	7名
トピック内容等	<p>明治学院大学の熊倉教授をお招きし、「あなたは(あるいは多くの人は)なぜ大学に進学するのか」というテーマで講演を行いました。教授は自己紹介と事前課題の説明の後、男女別の進学率や就職率の推移、給与の分布、最終学歴別の失業率など、具体的なデータを用いて大学進学の意義を丁寧に解説してくださいました。</p> <p>また、「大人になったらなりたいもの」の男女差やOECD加盟国の失業率についても触れ、進学や就職を社会全体の流れの中で考える視点を示してくださいました。</p> <p>生徒7名は円形に座り、教授の問いかけに順番に答える形で参加しました。「進学することで視野が広がると思う」「大学でより専門的な学びをしたい」といった自分の考えを率直に述べる生徒もあり、落ち着いた雰囲気の中で一人ひとりが考えを整理する時間となりました。全体を通して、生徒たちは教授の話に熱心に耳を傾け、大学進学の意味や将来の働き方について改めて考える貴重な機会となりました。</p>
生徒の感想	<p>・大学に入学することになぜだろうと疑問を持ったことがなかったので、今回の講義を聞いてとても勉強になりました。行きたい学部をぼんやりと考えているだけで、まだ詳しくその学部について知ろうとしていなかったので、自分が将来就きたい職業も見据えて、もっと詳細に目指す学部を決めようと思いました。欧米では日本と教育のスタイルがこんなに違うことを知らなくて、日本だと、自分に合わない職業だと思ったら転職することが欧米ほど難しくないと思うので、日本のスタイルが私には合っていると思いました。進路を真剣に考えるきっかけになりました。</p> <p>・人生に悔いのない選択をするのはとても大変なことだが、本当に正しい選択をするとすごく楽になると思いました。また、選択をするにあたり、友達や周りの人の力はとても頼りになると思いました。自分は今将来の選択で迷っていることが沢山あるので、この話が人生の道しるべとなると強く思えました。</p>
写真	 

トピックコード	114
トピック題名	「研究者への道: 王道でなくでもかまわない…かも?」
話題提供者	泉 賢太郎 先生
所属組織	千葉大学 教育学部 理科教育講座 准教授
参加生徒数	7名

### トピック内容等

一般的に、「研究者」に興味をもつききっかけには、知的好奇心や探求心が原動力となることが多いといわれます。また、多くの人は、「研究者」を目指す人のイメージとしては、論理的思考力をもち、専門的知識の探求のも奥的に向かって、忍耐力と精神力によってひたすら課題に取り組む姿を思い浮かべる。このような人たちだけが「研究者」になっているのだろうか、というところから、トピックが始まりました。

泉先生は、古生物学者として教育や研究に携わっていらっしゃいます。しかし、一般的な「研究者」への王道とは異なる道のりを経て、「研究者」になられたとのことです。王道的な側面のキャリアパスばかりが紹介されがちだが、将来への道のりは人の数だけ存在する。唯一の正解はないとのことで、実際の先生の「研究者」への道のりについての説明がありました。

将来に対して深く考えず、応援団に大学4年間をささげられていたそうです。しかし、いくつかの人生の岐路に立たされ、選択し、がむしゃらにがんばったときもあり、古生物学者になられたとのことです。この経験から、「何となく好きなものに向かっていきたいけれど、今一つ自信がない」という生徒たちへのエールをいただきました。

参加者も、「研究者」を真剣に目指すもの、または、なんとなく「研究者」になりたいと考えている生徒たちが多かったように見受けられ、皆真剣に聞いておりました。

### 生徒の感想

・研究者と言うと自分でブレない軸を持っていて、それに向かって突き進む人が多いイメージがありましたが、全員がそうでは無いのだと思いました。私も研究職に興味があったのですが、ひとつの事をずっとし続ける自信がなくて諦めていたので、勇気を貰えました。自分の将来についてもっと前向きに考えていきたいと思いました。

・自分の中ではやりたいことが明確にあり、将来やりたいことや進路なども少し詳しく考えていますが、自分の未来や理想をベースに物事を考えたりするが多く、講義で仰っていた「常に今が重要」だということは自分の中では意識できていない部分だったのでとても参考になりました。また、自分の興味のある部分に集中して視野が狭い部分もあるので、視野を広めて生活できるようにしたいと感じました。

### 写真



トピックコード	115
トピック題名	「「NG 記者」鈴木エイトから中高生の君たちへ メディアリテラシーとジャーナリズム」
話題提供者	鈴木 エイト 先生
所属組織	日本ペンクラブ 理事 言論表現委員会 副委員長
参加生徒数	16名
トピック内容等	<p>ネット・テレビや新聞でも著名な話題提供者のため、16名の参加生徒のほか、保護者や家族、教員の申し込みが多く、35名収容の教室がほぼ満席となった。</p> <p>渋谷駅でカルト団体の勧誘を見かけて介入したことがきっかけとなった活動履歴をはじめ、メディアリテラシー、オールドvsニューメディア、選挙と報道の関係、ファクトチェック、Slapp訴訟などの題材を語られた。</p> <p>カルト団体の報道を続けるうちに、期せずして元総理銃撃事件の一種の当事者となってしまった戸惑いや、報道ではなく事件そのものが社会を変えていくのではないかという恐れ、選挙関連の報道の変化が有権者の投票行動に大きな影響を与え始めていることへの危機感が強く感じられるお話であった。</p> <p>そのうえで、HPVワクチンの薬害訴訟裁判を丹念に傍聴されてわかつてききたことを整理して話された。</p> <p>裁判の場で、医学的、科学的なエビデンスと感情に基づいたナラティブが並行して語られることへの違和感、誰も悪意をもっていないのに、原告が正しい治療を受けられない現状が固定化し、さらにマザーキラーと呼ばれる子宮頸がんを予防するはずだったワクチンの役割が制限されて、多数の被害者が出ることが予測されるという事態への悲嘆が伝わってきた。</p> <p>話題提供後、教員、保護者、生徒、生徒の兄弟等立場を超えた質疑応答が行われ、終了後も話題提供者と意見や連絡先を交換する生徒の姿が見られた。</p>
生徒の感想	<p>・自分が見ているニュースは、ほんの一部であることを知ることができました。自分が選択しているつもりでも、実は誰かに誘導されているというというのがとても印象に残りました。なんでもかんでも肯定するのではなく、一旦「受け入れる」ということをして、他の情報も見て再考するということを意識していこうと思います。自分で選択をするためにも、勉強は一生懸命しようと思います。</p> <p>・鈴木さんが社会的弱者などを報道することが大切だが、弱者こそが正しいとは限らないとおっしゃったことが印象に残りました。鈴木さんの講義を受けるにあたって調査報道ファイルを読んで初めて知るHPVワクチンのことがあって、自分が見れていないことがたくさんあるなと思いました。もっといろんなことに目を向けることができるのは、SNSだけでなく、新聞という幅広いジャンルを扱うものも読んでみたいですね。とても楽しくて、学びになりました。</p>
写真	 